図書館の窓から

7
2011.7
No.133



（グロリオサ　田中 玉蘭／画）

【特集記事】

◆私の一冊
新潟県ギター協会会長　畠山 徳雄さん …… ３ｐ

◆最大200冊、６か月間本が借りられる！
団体向け貸出サービスを紹介 …… ７ｐ

DATE　２３・７・１

館長通信

～ もし中央図書館の館長がトマトを育てたら ～

春先から急に貸出数が増える資料があります。それは、園芸関係の本です。中央図書館と北地域図書館には、大きなコーナーを設けていますが、多くの方が利用されるため、一時的にこの類の本が少なくなります。これも近年の家庭菜園ブームのせいでしょうか。

実は私も、菜園づくりに凝ってしまい、さまざまな本を読みながら修行を続けているところです。

最近本により微妙に栽培方法が異なることに気づきました。たとえば、プランターでのトマト栽培の場合、底に赤玉土を入れると良いという記述と、逆に赤玉土は保水性に優れているため避けるべきという記述がありました。支柱の立て方にもさまざまな方法が紹介されています。



どうやら、1冊の本だけでなく、複数の本を参考にしながら、時には達人に聞いて、その場所の環境に適した方法を自ら苦労して見出すことが良策のようです。

今後とも、園芸に限らず、皆様のお役に立つ資料の充実に努めていきたいと思います。

小倉 進

文書資料室だより

長岡市史双書№50を刊行
～江戸時代の災害と長岡の人びと～

西蔵王３丁目の安禅寺が、江戸時代に上野の寛永寺の末寺であったことをご存知でしょうか。安禅寺文書から、上野の寛永寺との関係、蔵王権現領や長岡藩領の出来事などがわかります。これまで長岡市史双書№４、46、47に収録してきました。そして、第４弾となるのが、長岡市史双書の新刊№50『蔵王権現領安禅寺御用記⑷御用記（安永２年～天明８年）』です。

本書には江戸時代・天明年間（1781～1788）の記事が含まれています。「天明の飢きん」で知られるように、災害が多く起きた時代です。長岡の人びとは災害にどのように対処していたのでしょう。

天明元年（1781）閏５月19・20日、集中豪雨による信濃川の洪水で、長岡領から下流の蔵王権現領内に家や土蔵が流出しました。流れた家や筏を留めたり、難破した船に助舟を出したり、洪水の際に働いた人々へ褒美や手当が与えられました。また、蔵王町や堀金村は、特に困窮している人や高齢者へ米や金を施すよう蔵王役所へ願い出ています。町や村が住人を守ろうとする地域のつながりがうかがえます。

自然災害が頻発する現代。自然災害に対処するための何かを、本書から読み取っていただければ幸いです。（小林 良子）



▲長岡市史双書№50
頒布価格1,500円
文書資料室、市内の書店で頒布中



『世阿弥芸術論集』
世阿弥／著　新潮社

私の一冊

新潟県ギター協会会長
畠山　徳雄　さん

・・・本当に実力のある者は若い時と同じやり方、ペースでやれなくとも衰えをいろんな方法でカバーしていけるはず・・・

♪♪♪

人ごとだと思っていた古希という年を迎えています。麒麟も老いては駑馬（どば）に劣る。そういえば10年前、還暦の時も同じことばを噛みしめていたことを思い出しました。

１日千里を駆けるといわれている想像上の動物麒麟も、年をとれば歩みののろい馬にも負けてしまう。それ程老いるということは力を失う、と、観世流の祖、世阿弥は申しております。

世阿弥の遺したことばを集めた『世阿弥芸術論集』の中の「風姿花伝　第一　年来稽古条々」に載っているこの一行は、思い当たるフシがいくつかある身には耳（目）が痛いです。

しかし世阿弥は続けて、そうがっかりしなくともよろしい、本当に実力のある者は若い時と同じやり方、ペースでやれなくとも衰えをいろんな方法でカバーしていけるはず、とフォローしてくれています。この風姿花伝で言わんとしているところは、能を演ずるに花が不可欠であるということです。花とは芸の素晴らしさ、舞台に立っただけでも華やかさを感じさせ、他人とは異なる独特の魅力の総称を言います。

♪♪♪

一方、花がなければならないと言いながら、秘すれば花という逆の表現も大切とも言っており、華々しく目立つばかりが花ではないとすれば芸術の道はますます深く遠く、死ぬまで求め続けなければならないものなのでしょう。

世阿弥も世の動きに対する読みがはずれ、将軍の勘気を被り佐渡へ流罪となりました。しかし辺境の地にあり不遇であってもなお、情熱を燃やし続けました。その教えが現在も本間能として残っており、越後の財産になっています。

『世阿弥芸術論集』は600年以上たった今も、新鮮なまま我々の手元にあり、アーティストのバイブルのように読まれています。



●●　はたけやま　のりお　●●

昭和17年生まれ　長岡市出身
平成７年　NHKラジオ朝の随想出演
平成10年　フランス　ストラスブール市にてリサイタル
新潟県ギター協会会長
新潟中央短期大学非常勤講師
長岡市内でギター教室主宰
　市内外のイベントに多数出演し、子どもからお年寄りまで幅広い年代に歌や音楽の楽しみを提供している。

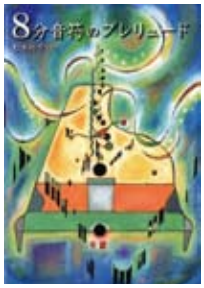
キーワード：ああ十代

10代が主人公の３冊。藩校・中学・高校と舞台は違っていても、それぞれの10代を生きている主人公たちの姿が印象的。

a



b



c



a『藩校早春賦』　宮本 昌孝／著　集英社
b『８分音符のプレリュード』　松本 祐子／著　小峰書店
c『武士道シックスティーン』　誉田 哲也／著　文藝春秋

公開！

あの福袋

群を抜いて多かったものが「青春」でした。

「青春」――この２文字の言葉は、なんという輝きをもっているのでしょう！

あらゆることに悩み、些細なことに笑い転げ、脱力し、怒り、苦しみ、泣き…。

そんな毎日がどれほど貴重なものだったのか、過ぎてしまった今となってはよく分かる！と思ったのかどうかは定かではありませんが、それでも青春をテーマに選んだ人が多かったことは、特筆すべきことでした。

というわけで、今回は「青春」またはそれにまつわるテーマの福袋の中から４つを選んで公開します。

青春真っ只中という人、過ぎてしまった人、それぞれの視点で読む「青春」という物語。

皆さんの目にはどのように映るでしょうか。

キーワード：青春

まさに直球のキーワード。熱い青春物語から日本の神秘・ファンタジーまで、バラエティに富んだ内容。

d



e



f



d『チェスト！』登坂恵里香／著　ポプラ社
e『ランナー』あさのあつこ／著　幻冬舎
f『ＲＤＧ』荻原 規子／著　角川書店

キーワード：なぜか気になるあいつ！！

恋愛や人間関係が鍵となる物語。人との関りを通して成長していく登場人物の姿が描かれています。

g



h



i



g『クローバー』島本 理生／著　角川書店
h『なりひらの恋』三田 誠広／著　ＰＨＰ研究所
i『明日の空』貫井 徳郎／著　集英社

福袋

2010年国民読書年の行事の一環として、昨年末に「としょかん福袋」を作りました。様々なキーワードが付いた福袋から気になるものを選んで借り、中身は開けてからのお楽しみという企画も、好評の内に幕を下ろしました。しかし、福袋の中には一体どんな本が入っていたのでしょうか…。借りた人しか知らない福袋の中身をのぞいてみませんか

の中身は!?



青春

福袋を作成するにあたり、図書館職員が選んだキーワードの中で

キーワード：学生はやっぱり青春！！

学生であるがゆえにできること、悩むこと…人生の特別な時期にいる彼らの姿を描いた作品。

j



k



l



j 『ぼくは勉強ができない』 山田 詠美／著　新潮社
k 『夜のピクニック』 恩田　陸／著　新潮社
l 『少年少女飛行倶楽部』 加納 朋子／著　文藝春秋

「青春」こんな本も――

●私にだって青春がありました！

『坊ちゃん列車かまたき青春記』
敷村 良子／著　毎日新聞社

『ダッシュ！』五十嵐貴久／著　ポプラ社

『おれのおばさん』佐川 光晴／著　集英社

●これも青春小説？

『ミサイルマン』平山 夢明／著　光文社

『正直な娘』唯野未歩子／著　マガジンハウス

『流れ星』山田 和英／著　文芸社

●青春は出会いと別れのくりかえし

『パイロットフィッシュ』大崎 善生／著　角川書店

『きみは誤解している』佐藤 正午／作　岩波書店

『シルエット』島本 理生／著　講談社

●甘酸っぱいあの頃…

『High and dry（はつ恋）』
よしもとばなな／著　文藝春秋

『ひな菊とペパーミント』野中　柊／著　講談社

『いつか、僕らの途中で』
柴崎 友香・田雜 芳一／著　ポプラ社

●頂点をめざせ！！

『ダイブ！！』(角川文庫）森　絵都／著　角川書店

『サクリファイス』近藤 史恵／著　新潮社

『バッテリー』(角川文庫）あさのあつこ／著　角川書店

●チーム

『ザ・チーム』井上 夢人／著　集英社

『夏のくじら』大崎　梢／著　文藝春秋

『青森ドロップキッカーズ』森沢 明夫／著　小学館

●恋をしたい人へ

『7月24日通り』吉田 修一／著　新潮社

『幸福ロケット』山本 幸久／著　ポプラ社

『夜は短し歩けよ乙女』森見登美彦／著　角川書店

●今の私には青春はまぶしすぎる！！

『イレギュラー』三羽 省吾／著　角川書店

『ぼくだけの☆アイドル』新堂 冬樹／著　光文社

『レッドシャイン』浜野 京子／著　講談社

所蔵資料紹介　No.129　養蚕図　城北／画　吉池／賛

長岡近辺では、明治になってから養蚕が盛んになり、昭和13、4年ころまで続きました。部屋の戸を取りはずし、家中蚕棚でいっぱいになり、夜の静けさの中で、蚕の桑を食う音が聞こえてくる情景は、何とも言えないものがありました。戦後、ナイロンの発明で絹の需要が衰え、養蚕は廃れていきました。

右の絵は、手ぬぐいを姉さかぶりにした和服の女性が、籠の中の桑を蚕座にいる蚕の上にばらまいている様子です。蚕は４回ほど脱皮し、生まれた時より１万倍の大きさになって上簇(じょうぞく)※し、わらで作った「まぶし」の中で繭をつくります。２匹一緒で作った繭は、玉繭と言い、真綿になります。

賛の「身を殺し　錦を残す　蚕かな」という句は、蚕の様子をうまく表現していると思います。

蚕の卵は、冬（冷温）を経ないとふ化しないので、春蚕の産んだ卵を貯えておいた雪の冷温にあわせ、ふ化させることに成功しました。そのために生まれたのが草生津の雪鴆(ゆきにょ)です。その雪鴆も冷蔵・冷凍庫の出現でなくなりました。

絵を描いた城北、賛を書いた吉池、ともにどういう人物か、資料がなく残念ながら詳しく紹介できません。しかし、養蚕の様子がわかるこの絵は、後世のために残しておきたいものです。

※上簇－蚕が繭を作る状態になること　（今井　雄介）



賛
身を殺し
錦(にしき)を残す(のこす)春
蠶可南(かいこかな)

郷土資料紹介　～読むタイムトラベル②　中世in越後～



『武者たちの黄昏　越後歴史紀行』
渡辺 れい／著　新潟日報事業社



『現代に生きる中世の食文化　美味誕生』
田中 一郎／編著　新潟日報事業社

武将が群雄割拠していた中世の越後。上杉謙信という光の陰で、どれだけの人々が失意を抱いてこの世を去っていったのか。本書は、県内の戦場跡地を巡りながら当時に思いを馳せ、勝者と敗者を分けた複雑な人間ドラマへの興味と共に、歴史の酷薄さをも実感させてくれる１冊です。県内各地が紹介されていますので、旅のガイドとしてもお薦めです。

本書は、旧神林村、粟島浦村を中心とした北越後を統治していた色部(いろべ)氏に伝わる『色部氏年中行事』に注釈をつけ、中世の越後の食文化をわかりやすく解説した１冊です。一年の行事の中でも正月に関する記述が多く、現代の食生活に通じる点も多々見受けられます。正月の祝膳に欠かせない塩引き鮭と納豆の記述にはこの地域独特の文化が感じられ、北海道産のにしんや昆布の記述は当時の海上交通の発展ぶりをうかがわせます。　（徳永　馨）

最大２００冊、６か月間本が借りられる！
団体貸出文庫

こんな方が利用しています



保育園・幼稚園

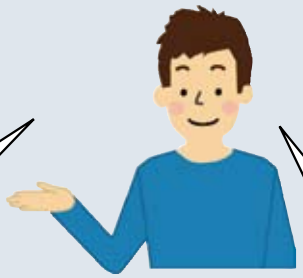
週に一回子どもたちに貸出しています。表紙で選んだり、読み聞かせで読んでもらった本を選んだりと子ども達はとても楽しみにしています。



読書サークル

たくさんの本を、長い期間借りることができて、とても重宝しています。

一度手続をすれば、その年度内は何回でも本の入れ替えができるのが良いですね！



デイサービスセンター
介護施設

本の貸出日になると子どもたちは“今日、本借りられる日だよね！”と喜んで聞いてくるんですよ。

新しい本や色々な内容の本を借りられて、皆さん熱心に読書されています。

施設内の空きスペースを利用して、お客様向けの書棚を作りました。色々な本を待ち時間などに利用してもらえて助かっています。

●利用するためには





団体貸出文庫を利用するためには、事前の申込が必要になります。貸出を希望する図書館へ、利用する日の１週間前までにご連絡ください。

【対象】

・市内在住の10名以上のグループ
・市内の企業、施設等

【借りられる冊数と期間】

館名	借りられる冊数	貸出期間
中央図書館	２００冊以内	６ヶ月
地域図書館	１００冊以内	１ヶ月

※中央図書館は、館外奉仕室の資料（約７万６千冊）が対象です。

～～ 詳しくは、お近くの図書館へお尋ねください ～～

イベントガイド（7月～9月）　全て参加無料

【読者のつどい】　互尊文庫１階 児童室　19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

7/22(金)『悼む人』　天童 荒太／著

8/26(金)『初恋』　ツルゲーネフ／著

9/23(金)『王妃の離婚』　佐藤 賢一／著

【子どもの本を読む会】　中央図書館２階 講座室１　10:00～11:30

テーマに沿った子どもの本を紹介し合ったり、感想を語り合います。

7/13(水) 戦争絵本・平和絵本　　9/14(水) のりもの絵本

【映画会】　中央図書館２階 講堂　14:00～

7/12(火)「ここに泉あり」(1955年日本、150分)

7/24(日)「こどもにんぎょう劇場（日本編)」(2006年日本、135分)

8/7（日)「父と暮せば」(2004年日本、99分)

8/28(日)「ぼくのおばあちゃん」(2008年日本、123分)

9/13(火)「トリコロール／青の愛」(1993年フランス、99分)

9/25(日)「いのち耕す人々」(2009年日本、100分)

【体験！図書館の仕事2011】　市内各図書館

夏休み期間中、カウンター業務や本の整理などを体験してみませんか。参加を希望される方は、7/13（水）までに各図書館へお申し込みください。

※【文化講座】　中央図書館２階 講堂　14:00～15:30

長岡市が誇る書道家の一人で、本紙の表紙を担当されている田中玉蘭先生を講師にお迎えします。

期日：9/24（土）　定員：180名（先着順）

※【貴重資料公開講座（第２回)】　中央図書館２階　講座室１　14:00～15:30

中央図書館の貴重資料について、解説を聞きながら楽しく鑑賞できます。

期日：9/25(日)　　定員：20名（先着順）

講師：今井 雄介（中央図書館嘱託員）

※申込：いずれも9/10（土）から中央図書館窓口又は電話で受付開始

図書館ニュース

◆堀口大學生誕120年記念行事のお知らせ

堀口大學生誕120年を記念して中央図書館美術センターで「長岡ゆかりの詩人 堀口大學 生誕120年展」を開催します。これに合わせ、堀口大學の長女、堀口すみれ子さんをお招きして講演会を行います。

展覧会・講演会に関する詳細は、市政だよりなどでお知らせします。

今年の秋も、図書館から目が離せません！

【展覧会】

10/9（日）～10/30（日）

【講演会】

10/9（日）14:00～15:30



▲若き日の堀口大學

名　称	電　話	休　館　日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256-97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文書資料室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり

～～～～ あとがき ～～～～

暑い季節が到来し、ピーク時15％の節電が叫ばれている昨今ですが、図書館は２割増しで楽しめる本をご用意しておりますので、是非ご来館ください。　（渡辺 雄亮）

平成23年７月１日発行

編集・発行　長岡市立中央図書館

住　所　新潟県長岡市学校町1-2-2

編集員　渡邉 恭子　渡辺 雄亮　山本 祐子　山田 紀子　岩本 純子　横山知加子

メールアドレス　lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス　http：//www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印　刷　北越印刷㈱